

“らしく” するということ

「男（女）らしく」とか「子供らしく」「学生らしく」という言葉はすでに失われてしまい、そうあることを若者に望むのはうざったい年寄りの戯言になってしまったのかもしれない。

この「・・らしく」という言葉は、言われる立場からすると確かに「そんなのはこっちのかってだ。」と反発することもある。「らしく」することが格好悪く、あえて「らしくない」ことに自分の個性を発揮しようとするものもいる。

しかしこの「らしくする」ということができていないのは、意外にも大人の側であったりする。日々新聞をにぎわす記事は、「議員らしくない国会議員」「先生らしくない学校の先生」「警察官らしくない警察官」「医者らしくない医師」によるものであり、きわめつけは「総理大臣らしくない総理」ではなかろうか。

高い地位や役職につくということは、それ相当の責任を負うことになる。法的なことのみならず、倫理的、道義的にもその人の言動は少なからず制約を受けるものなのである。それなのに「私も人間ですから・・・」などといって許しを請うたり、深謀遠慮なしに失言を繰り返したりするものにその地位につく資格はない。

大きな役職に限った話ではない。身近なことにおいても「らしくする」ということは実は大変な努力と自制が必要である。「大人らしい大人」しかり、「親らしい親」しかり。「らしく」あろうと努力するその姿が格好いいわけであり、信頼を作り出すものである。いま格好いい大人が少なくなっている。大きな事をするばかりでなく、それは日常のほんの些細なことでもよい。大人が、子供たちに見られていて恥ずかしくない（格好いい）大人になろうとする姿をもっと見せるべきではないのか。一時の感情や欲望に流されない姿、目の前の小利を追わずに筋を通す姿、そういう姿を見せ続けることが親として大人として「らしくする」と言うことではないかと思う。この点においては死ぬまで子供に負けてはいけないと思う。子供を認めることはあっても、親はあくまでも子供にとっての目標であり、高い壁として生き続けなければならない。

私は「地位は人を鍛え、のばすきっかけになる」と信じている。現状に満足して怠惰な生活をする人生に価値などない。人は少し無理を承知で様々な役をうけ、誠心誠意その役「らしく」あろうとするなかで成長するものではないだろうか。

'03年度3学期実力テスト結果(高森台中学)

| 高森台中 | | 英語 | 数学 | 国語 | 社会 | 理科 | 合計 |
|--------|----|------|------|------|------|------|-----|
| 中 3 | 塾生 | 84.0 | 86.5 | 80.4 | 73.1 | 83.8 | 408 |
| | 学年 | 62.8 | 66.3 | 72.7 | 59.6 | 64.3 | 326 |
| 中 2 | 塾生 | 89.6 | 94.4 | 82.9 | 78.6 | 80.6 | 426 |
| | 学年 | 62.4 | 57.2 | 65.1 | 49.4 | 53.1 | 287 |
| 中 1 | 塾生 | 94.6 | 88.4 | 69.8 | 65.4 | 66.4 | 385 |
| | 学年 | 57.5 | 56.0 | 52.7 | 43.0 | 38.5 | 248 |